

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 未来工学部 データサイエンス学科

1. 本学部の教育課程の内容を踏まえると、数学について一定の基礎学力を有することを前提としていると思われるが、総合型選抜試験では数学の基礎学力を測定する選抜方法となっているようには見受けられず、学校推薦型選抜においても高等学校での履修で数学Ⅰ及び数学Ⅱの履修を求めているものの、本学部の教育課程を履修する上での基礎学力として必要と思われる数学A及び数学Bを求めている。また、本学部の教育課程を履修する上で十分な数学の基礎学力を有しない学生に対するリメディアル教育科目や学修支援についての記載もなく、このような学生に対する適切な学修支援がとられているかどうか判然としない。本学部が入学者に求める数学の基礎学力の基準を踏まえ、仮に数学の基礎学力が十分でない学生の受入れが想定されるのであれば、そのような学生を支援するためのリメディアル教育科目を配置するなどの適切な学修支援が取られていることを説明するか、本学部の教育課程を履修する上で十分な基礎学力があることを確認できる入学者選抜であることを説明しつつ、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2. 審査意見1への対応を踏まえ、入学者選抜が適切に設定されていることを説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

3. 校地校舎等の図面について、学長室が確認できる校舎の平面図が示されていないため、資料を提出すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

(是正事項) 未来工学部 データサイエンス学科

1. 本学部の教育課程の内容を踏まえると、数学について一定の基礎学力を有することを前提としていると思われるが、総合型選抜試験では数学の基礎学力を測定する選抜方法となっているようには見受けられず、学校推薦型選抜においても高等学校での履修で数学Ⅰ及び数学Ⅱの履修を求めているものの、本学部の教育課程を履修する上での基礎学力として必要と思われる数学A及び数学Bを求めている。また、本学部の教育課程を履修する上で十分な数学の基礎学力を有しない学生に対するリメディアル教育科目や学修支援についての記載もなく、このような学生に対する適切な学修支援がとられているかどうか判然としない。本学部が入学者に求める数学の基礎学力の基準を踏まえ、仮に数学の基礎学力が十分でない学生の受入れが想定されるのであれば、そのような学生を支援するためのリメディアル教育科目を配置するなどの適切な学修支援が取られていることを説明するか、本学部の教育課程を履修する上で十分な基礎学力があることを確認できる入学者選抜であることを説明しつつ、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

指摘を踏まえ、未来工学部が求める入学者への数学の能力と、それを担保する上での入学選抜時の基準、そして入学後の学習支援体制について、以下の通り改めた。

未来工学部におけるデータサイエンス分野の専門的な内容を学ぶ上で、数学の基礎的学力の確保は必要不可欠であると考えている。そのために、教育課程における一般教育科目群にあたる基礎教育科目の「微分積分学A・B」「ベクトルと行列」「統計学BI」を1年次の必修科目として配置している。この数学の科目をはじめとする未来工学部の教育課程を履修するために、入学者には「高等学校学習指導要領に基づく基本的な数学の知識と技法の習得」を求める。そこで、総合型選抜及び学校推薦型選抜（公募制）では出願条件に高等学校での数学Ⅰと数学Ⅱに加え、数学A及び数学Bの履修を設定した上で数学の成績基準を課し、一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜では数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの範囲を含めた科目試験を課す。

未来工学部では前述の通り、各入試選抜方法において数学における履修上の基準を設けることで、入学者の数学の基礎学力は担保されると考えている。ただし、教育課程の特性上、入学後も数学に関する能力向上は欠かせないものであるため、学習支援の体制も整備する。

1つ目は未来工学部を設置する相模原キャンパスにおいて開設する「学習サポートセンターASC (Academic Support Center) (以下、ASC)」との連携である。ASCは高校までの学習内容を基礎として、大学での学習が円滑に行えるよう、個別に指導・支援する本学独自のセンターである。英語、数学、物理、化学、生物の5科目について、高校で教鞭をとっていた教員がチューターとして常駐し、マンツーマンからグループ学習まで、学生の要望に対して柔軟に対応している。未来工学部へ入学後、数学に不安を持つ学生がいた場合は、未来

工学部の専任教員と ASC のチューター、そして学生の 3 者間で話し合い、学習進度に応じた支援を行えるよう連携する。

2 つ目は専任教員のオフィスアワーに、数学の相談時間を設ける。未来工学部の専任教員のうち、数学を主の専攻とする教員が 2 名おり、また、そのうち 1 名は高等学校における数学（数学 I,II,A,B）の教育歴を保有しているため、入学直後から学生のレベルに応じて柔軟に対応できるものと考えている。相談時間については希望制の導入や隔週開催など、担当する専任教員の負担を考慮した上で設定する。

また、入学前教育の導入も視野に入れる。特に、総合型選抜及び学校推薦型選抜（公募制）は、一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜と比べて合格発表後から入学までの期間が長いことから、入学後スムーズに未来工学部での学習を進めることができるよう、その期間を利用し学力維持・向上を目的に、入学前教育を実施する。数学については、数学 I、数学 II、数学 A、数学 B の範囲の復習として冊子課題を課すとともに、冊子課題の進捗チェックと複数回の確認テストを実施する。

以上により、未来工学部の入学者に対して基準等を設けることで、数学の基礎能力を担保できるものと考えており、さらに、学習するにあたり必要な数学能力の水準を保てるよう、合格後及び入学後も十分な学習支援体制を整備する。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（21 ページ）

新	旧
<p><u>3. 学習支援体制</u></p> <p><u>本学部の教育課程は、データサイエンスにおける専門的内容を体系的に編成しており、それらを学ぶ上では、入学時における数学の基礎的学力の確保は必要不可欠であると考えている。そのために、高等学校での数学（数学 I、数学 II、数学 A、数学 B）の基本的な知識と技法の習得を前提とした各入学選抜を実施し、数学の基礎的学力を備えた入学者を想定している。</u></p> <p><u>ただし、教育課程の特性上、入学後も数学に関する能力向上は欠かせないものであるため、学習支援の体制を以下の通り整備する。</u></p> <p><u>(1) 学習サポートセンター（ASC）との連携</u></p>	<p>※記載なし</p>

<p><u>本学部を設置する相模原キャンパスには、「学習サポートセンターASC (Academic Support Center) (以下、ASC)」という学習支援施設を配備している。ASCは高校までの学習内容を基礎として、大学での学習が円滑に行えるよう、個別に指導・支援する本学独自のセンターである。英語、数学、物理、化学、生物の5科目について、高校で教鞭をとっていた教員がチューターとして常駐し、マンツーマンからグループ学習まで、学生の要望に対して柔軟に対応している。</u></p> <p><u>本学部では、教育課程の特性上、数学をはじめとする数理的知識を土台とする科目を配置していることから、入学後にこれらの科目に不安を持つ学生がいた場合は、本学部の専任教員とASCのチューター、そして学生の3者間で話し合う機会を設けるなど、学習進度に応じた支援を行えるよう連携する。</u></p> <p><u>(2) 専任教員における学習支援</u></p> <p><u>専任教員のオフィスアワーに、数学の相談時間を設ける。本学部専任教員のうち、数学を主の専攻とする教員が2名おり、そのうち1名は高等学校における数学(数学I、数学II、数学A、数学B)の教育歴を保有しているため、入学直後から学生のレベルに応じた柔軟な対応ができるものと考えている。相談時間については、希望制の導入や隔週開催など、担当する専任教員の負担を考慮した上で設定する。</u></p>	
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (28 ページ)

新	旧
3. 入学前教育の実施	※記載なし

<p><u>入学後スムーズに本学部での学習を進めることができるよう、入学までの期間を利用し学力維持・向上を目的に、入学前教育を実施する。特に、総合型選抜及び学校推薦型選抜（公募制）の入学者は、一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜と比べて合格発表後から入学までの期間が長いことから、入学前教育の対象とする。</u></p> <p><u>入学前教育では、本学部の教育課程上、特に重要と考えている数学の基礎学力について課題を課す。具体的には、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの範囲の復習として冊子課題を課すとともに、冊子課題の進捗チェックと複数回の確認テストを実施する。</u></p>	
--	--

(是正事項) 未来工学部 データサイエンス学科

2. 審査意見 1 への対応を踏まえ、入学者選抜が適切に設定されていることを説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見 1 への対応で記載した通り、当該指摘を踏まえ総合型選抜と学校推薦型選抜（公募制）における入学者選抜の選抜方法を改める。

総合型選抜については、入学者における数学の基礎学力を担保するため、出願条件として「数学の学習成績の状況が 4.0 以上の者」と「高等学校において数学 I、数学 II、数学 A、数学 B を履修（見込み含む）した者」を追加した上で、選抜方法の講義理解力試験について見直す。

学校推薦型選抜（公募制）についても、出願条件について学習成績の基準を見直すとともに、「数学 I、数学 II を履修（見込み含む）した者」を「数学 I、数学 II、数学 A、数学 B、英語を履修（見込み含む）した者」に改めた。

一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜については、ともに数学 I、数学 II、数学 A、数学 B の範囲で学力試験を課すとともに、調査書において学習状況を把握できることから、変更はない。

以上から、いずれの入学選抜において、未来工学部が入学時に求める十分な数学の基礎学力を有する者を確保できるように入学者選抜方法を変更する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (26-27 ページ)

新	旧
(1) 総合型選抜試験 [募集人員: 10 人] ア. 出願条件として、次の i) ii) iii) <u>iv)</u> を満たす者とする。 <略> ii) 大学専門教育に適する者として、 <u>数学の学習成績の状況が 4.0 以上の者</u> iii) <u>数学 I、数学 II、数学 A、数学 B を履修（見込み含む）した者</u> <u>iv) 責任を持って自己を推薦できる者</u> イ. 選抜方法・評価するポイント 以下の方法により、入学志願者の能力・適正等を総合して判定する。 i) 講義理解力試験	(1) 総合型選抜試験 [募集人員: 10 人] ア. 出願条件として、次の i) ii) iii) を満たす者とする。 <略> ii) 大学専門教育に適する者 iii) 責任を持って自己を推薦できる者 イ. 選抜方法・評価するポイント 以下の方法により、入学志願者の能力・適正等を総合して判定する。 i) 講義理解力試験

<p>40 分の数理的内容を含む自然科学に関する講義を受講した後、60 分の試験時間で、その内容に基づく課題を 600 字程度の論述形式で解答する。講義を理解し、自分の知識と結びつける力、自分の考えをまとめる能力（思考力・判断力・表現力）を評価する。</p>	<p>60 分の試験時間で自然科学に関する長文読解の後、その内容に基づく要約と自らの考えについて 400 字程度で論述する。長文を理解し、自分の知識と結びつける力、自分の考えをまとめる能力（思考力・判断力・表現力）を評価する。</p>
<p>(2) 学校推薦型選抜（公募制）〔募集人員：45 人〕 ア. 出願条件として、次の i) ii) iii) を満たす者とする。 i) 大学専門教育に適する者として、次の①及び②に該当する者 ①全体の学習成績の状況が 3.5 以上の者 ②数学及び外国語（英語）の学習成績の状況の平均値が 4.0 以上の者 ii) 次の科目を履修（見込み含む）した者 【数学】数学 I、数学 II、数学 A、数学 B 【外国語】英語</p>	<p>(2) 学校推薦型選抜（公募制）〔募集人員：45 人〕 ア. 出願条件として、次の i) ii) iii) を満たす者とする。 i) 成績優秀にして大学専門教育に適する者 全体の学習成績の状況が 3.5 以上の者、または数学と外国語（英語）の両教科の学習成績の状況がいずれも 4.0 以上の者 ii) 数学 I、数学 II を履修（見込み含む）した者</p>

(是正事項) 未来工学部 データサイエンス学科

3. 校地校舎等の図面について、学長室が確認できる校舎の平面図が示されていないため、資料を提出すること。

(対応)

指摘に伴い、学長室が含まれている校舎平面図を提出する。

なお、学長室は相模原キャンパスと白金キャンパスにそれぞれ整備している。相模原キャンパスには、申請時に添付した平面図のうち、L2号館1階の事務室内に配置しているが、名称が「応接室」となっていたため、改めた。(資料1)

また、法人本部となる白金キャンパスの学長室は、理事会や法人運営に関する活動時に使用しており、今回新たに提出する。(資料2)

(新旧対照表) 校地校舎等の図面 (14 ページ、31 ページ)

新	旧
L2号館1階 <u>学長室</u>	L2号館1階 応接室
白金キャンパス <u>学長室</u>	※添付なし